

アザレア *Rhododendron hybrida* Hort. ツツジ科

1 経営的特徴と導入方法

アザレアは、耐寒性はあまりなく、本県ではハウス栽培が基本となり、11月から3月頃まで生産される。

挿し木で増殖できるので、一旦購入すると種苗費は、あまりかからないが、一般の温度やかん水などの管理のほかに草姿を整えるためのピンチとわい化剤使用等の管理がある。

表1 10a当たり旬別所要労働時間(単位:時間)

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間	4.0	4.0	6.0	10.0	16.0	10.0	22.0	20.0	22.0	45.0	41.0	37.0	39.0	61.0	47.0	14.0	54.0	50.0

7月			8月			9月			10月			11月			12月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
32.0	34.0	26.0	23.0	29.0	21.0	34.0	40.0	36.0	26.0	38.0	33.0	38.0	42.0	28.0	18.0	18.0	14.0	1,032

(注) 1. 新潟県先進的農業経営体育成指針(1993.12)

2. 収穫鉢数8,800鉢/10a

2 生理生態的特性と適応性

アザレアはツツジ科に属する常緑灌木で、中国、台湾に自生しているタイワンヤマツツジを主な交配親としてサツキやヒラドツツジ、久留米ツツジなどの種あるいは属間交配によって作出された。主にベルギーを中心とするヨーロッパで温室用ツツジとして改良されたため、耐寒性は弱いものとなっている。

春、開花が終わると花の直下の節から3~4本の新梢が萌芽し7~8月まで伸長を続け、このころ先端部分で花芽分化が始まる。秋になって気温が低下すると花芽は休眠に入り、一定の低温期間を経て休眠が破れ、その後の気温上昇で開花してくる。ビーナイン等のわい化剤の使用により、花芽分化数が増加する。

3 作型と品種

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
促成栽培	Ω												
	— 加温 —			∨	— × —				×	— Ω 加温 Ω —			
	— × —			— ● ● —				—		—			
半促成栽培	Ω												
	— 加温 —			∨	— × —				×	— Ω 加温 Ω —			
	— × —			— ● ● —				—		—			
普通栽培	Ω												
	— 加温 —			∨	— × —				×	— Ω 加温 Ω —			
	— × —			—				—		—			

(1) 作型

作型は、10、11月出荷の促成栽培、12、1月出荷の半促成栽培、2、3月出荷の普通栽培の3つ程度である。この3つとも出荷までには2～3年ほどを要するが、低温処理時期と加温開始時期以外は実質作業時期の違いはない。

低温処理時期と加温開始時期については「4. 栽培」の(5)と(6)で述べる。

(2) 品種

品種により早晩性があり、促成栽培ほど早生種を選択する。

ア 極早生種：アンブロッシアーナ、ヘルムート・ホーゲルなど

イ 早生種：朝日、晴朗など

ウ 中生種：春のひびき、レオポルド・アストリッドなど

エ 晩生種：ピノキオ、グレーテルなど

4 栽培

(1) 繁殖・育苗

ア 挿し穂の調製

アザレアは挿し木で増殖されるため、親株が必要となる。親株は十分肥培して新梢を充実させる。実際

上は2年生株のせん定で生じた切り枝を挿し穂とする。つまり挿し木の時期はせん定時期に合わせて行われる。挿し穂は充実した頂芽（1年枝）を用いる。2年枝を用いても良いが発根が遅れたりばらつくため、利用しない方が無難である。貧弱な枝もボリューム不足につながるため用いない。挿し穂の調製は十分水揚げを行った後、切り口を鋭利な刃物で切り戻す。切り口を乾燥させないようにして発根促進剤（オキシベロン液剤10～40倍液、もしくは0.1%粉剤）で処理をする。

イ 育苗用土

挿し木の用土は鹿沼土の単用もしくは鹿沼土にピートモス（無調整）を等量混ぜ合わせたものを用いる。

育苗箱に用土を詰め挿し木するのが一般的であるが、2.5号ポットに直接2～3本程度挿しても良い。

ウ 挿し木後の管理

発根までは1か月以上要するが、毎日のかん水の他に、1日数回葉水を与える。温度は20℃前後が最も良く、ビニールをかぶせたりして保温する。

(2) 鉢上げ準備

ア 用土の準備

鹿沼土7割に対し、ピートモス3割の混合を基本とする。アザレアは酸性土壌を好むのでpHの調整は特に必要ない。実際問題上鹿沼土の利用は、青森県ではコスト高につく場合が多いので、十和田砂での代用も可能である。ただし十和田砂は乾きやすいので、ピートモスの比率を上げ、1～2割を入手しやすい用土（黒土、畑土等）に置き換える。他の品目にもいえることではあるが、栽培期間が長いいため排水、保水性ともに良く経時的に団粒化構造が変化しない用土が望ましい。

イ 肥料

栽培期間が長いいため、緩行性の肥料を混入しておくのが簡便である。リン酸分多めのものを用い、窒素成分が1割程度のものであれば、用土1リットル当たり現物で2gほど混入しておく。

(3) 鉢上げ

ア 第一回目

挿し木から2か月ほど経ったときが、鉢上げ時期となる。2.5号のポリポットに直接挿し木した場合は、そのまま肥培管理やせん定作業にはいるため鉢上げ作業は必要ない。箱挿しの場合は、1本ずつに株を分けてからあらためて2～3株寄せ植えにする。

イ 第2回目

挿し木の翌春、2～3月頃仕上げ鉢に定植をする。4～4.5号鉢が標準となる。

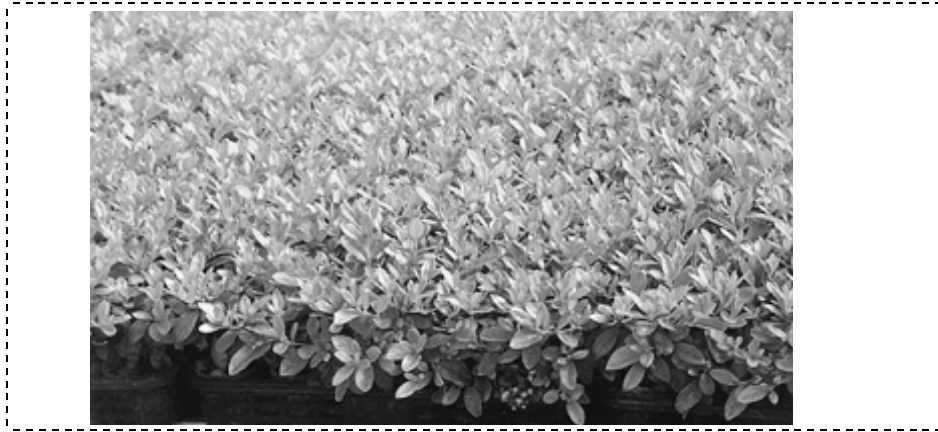


図1 挿し木1年後の状態（第2回目鉢上げ前）

(4) 鉢上げ後の管理

ア かん水

鉢上げが終わったら、鉢底から水が流れ出るまでたっぷりとかん水を行う。アザレアは非常に水を好むため、絶対に水切れをさせてはならない。ほぼ毎日頭上かん水をする。低温期は、根腐れ防止のため用土表面が乾きはじめてからかん水する。

イ せん定

第一回目の鉢上げ時と同年の9月、翌春の3月頃の3回行う。せん定は枝数を増やすのと、形を整えるために行う。樹形が開花時を考え丸く平らに仕上がるようにする。

ウ 温度管理

生態のところ耐寒性が弱いと述べたが、他のツツジ類に比べてのことであり、凍結しなければ無加温の二重カーテン程度の保温で十分越冬する。できれば0℃以下にしない方がよい。夏場は通気を図り、施設内が蒸れないようにする。11月から4月頃までの低温期間を除いては、露地で管理してもかまわない。

エ 遮光

アザレアは弱日照にも耐え、むしろ強光を嫌う。特に夏場の強光下では葉やけが発生しやすいため、晴天高温時には寒冷しゃによる遮光が必要となる。遮光率は30%程度で良く徒長防止のため、あまり暗黒にはしない。

オ 追肥

基肥の肥効期間は特に追肥の必要はないが、肥効期間の終わる頃に追肥する。使用する肥料は基肥と同じもので、施用量も同程度でかまわない。

(5) 冷蔵処理

促成あるいは半促成の作型では、冷蔵処理が必要となる場合がある。最近は四季咲き性を有する品種も出始めているが、開花の揃いを良くするために冷蔵処理を行う。冷蔵する場合は7℃前後で、処理期間は1か月程度である。半促成の作型においては、早生種を用いる限り、本県では自然低温だけで、冷蔵処理をする必要がない場合が多い。普通栽培においては十分自然低温を活用できるため、冷蔵施設並びにそれを用いることは不要である。

(6) 加温時期および加温温度

加温温度は越冬させるだけの場合は最低5℃もあればよい。育苗期間（生育期間）は10℃以上とし、促成栽培の場合は冷蔵終了後18℃程度まで加温する。

加温開始時期は、ほとんどの作型で11月頃からとなる。促成栽培、半促成栽培とも冷蔵処理終了後からの加温開始となる。普通栽培の場合は、加温温度を高めを設定すると予定より早く開花する場合があるので、5℃程度の最低温度を維持し、12月頃から花らいの生育状況に応じて加温温度を上げる。

(7) わい化剤処理

アザレア栽培において必ず必要となるのがわい化剤処理である。これは、樹形をコンパクトにするのと着蕾数増加の目的で行われる。散布時期は1回目が夏の花芽分化期に行うが、出荷期により6～7月と幅がある。さらに3～4週間後に第2回目を散布する。ビーナイン処理の場合250倍程度を散布するが、品種によりこれより濃度が薄くても効果があるもの、または高濃度でないと効果がみられないものがあるため注意をする。

5 主要病害虫とその防除対策

(1) 病 害

ア もち病

新葉や新芽などに発生し、発病部が耳たぶのように肥大する。はじめは淡緑色であるが後に表面が白い粉を噴いたようになる。これは病原菌の子実層で、多量の胞子が形成されている。降雨が多いときに多発生しやすい。発生前あるいはごく初期から薬剤防除を行う。また、発病葉は見つけ次第摘み取り、土中深く埋めるか焼却する。

イ 褐斑病

葉脈に区切られた褐色の病斑ができる。多発生すると葉は黄化して落葉する。多湿な条件で発生しやすい。被害葉は摘み取って焼却する。

ウ 花腐菌核病

花卉、花らいに発生する。はじめ淡褐色の小斑点が形成され、次第に花全体が褐変・腐敗する。腐敗した花には後に黒色不整形、数mm大の菌核を生ずる。菌核によって越冬し、翌春降雨の多い条件で子のう胞子を生じて伝染する。被害花は摘み取って焼却する。また、発生期には薬剤防除を実施する。

(2) 虫 害

ツツジグンバイ、ハマキムシ類等が加害するが、他の害虫も含めて県内では不明な点が多い。

6 調製・出荷

出荷適期は市場により異なるが、総花らい数の2～3割程度が開花したときである。鉢の汚れを拭き取り、傷んだ花や枯れ葉を取り除いてからの出荷となる。



図2 出荷前の状況

参考・引用文献

- 1) 国重正昭、「農業技術体系花卉編11 花木・観葉植物」、農山漁村文化協会（平成6年）
- 2) 蒲沢正平、篠崎誠、「鉢物栽培技術マニュアル 1巻」、誠文堂新光社（平成6年）

アザレア栽培ごよみ

月	旬	栽培1年目		栽培2年目 ～出荷		栽培の要点	摘要																																																																	
		生育	作業	生育	作業																																																																			
4	上	挿し木	生育	期	加温終了	1. 作型 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>栽培1年</td> <td colspan="12" style="text-align: center;">Ω — 加温 — Ω</td> </tr> <tr> <td>目(共通)</td> <td>∨ —</td> <td>◇ ×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>—</td> <td colspan="6"></td> <td>◇ ×</td> </tr> <tr> <td>2年目</td> <td colspan="12" style="text-align: center;">Ω — 加温 — Ω</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="12" style="text-align: center;">(促成) (半促成)</td> </tr> </table>		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	栽培1年	Ω — 加温 — Ω												目(共通)	∨ —	◇ ×	—	×	—							◇ ×	2年目	Ω — 加温 — Ω													(促成) (半促成)												
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																						
	栽培1年						Ω — 加温 — Ω																																																																	
目(共通)	∨ —	◇ ×	—	×	—							◇ ×																																																												
2年目	Ω — 加温 — Ω																																																																							
	(促成) (半促成)																																																																							
中																																																																								
下																																																																								
5	中	鉢上げ (1回目)	わい化剤 処理 (1回目)	わい化剤 処理 (2回目)	冷蔵処理 (促成)	2. 挿し木 挿し木は充実した前年枝を用いる。鹿沼土や十和田砂に無調整ピートを混ぜた用土に挿し木する。 (1) 温度：20℃前後が理想である。ビニール等で被覆し保温につとめる。 (2) 水管理：発根までは空中湿度を特に高くし、萎れないようにする。																																																																		
	下																																																																							
6	上	剪定 (1回目)	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)	3. 用土の準備 (1) 十和田砂に無調整ピートモスを等量に混ぜ合わせたものを用いる。全体量の1～2割土を混ぜて保水量を調整する。 (2) 緩効性化成肥料を用土1リットル当たり現物で2gほど混入する。																																																																		
	中																																																																							
7	上	生育期	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)	4. 鉢上げ (1) 1回目は挿し木後2か月目で2.5号ポットへ定植する。 (2) 2回目翌春2～3月に4～4.5号鉢に定植する。																																																																		
	中																																																																							
8	上	剪定 (2回目)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (促成)	5. 定植後の管理 (1) 温度：育苗期間中の越冬期間は凍らない程度の温度でよく、生育(伸長)期間だけ10℃程度まで加温をする。2年目は開花調節のために花らいの伸長にあわせ加温温度を上げる。 (2) かん水：用土表面が乾き始めたら、鉢底から水が出るまでたっぷりとかん水をする。 (3) 追肥：肥効期間の切れる頃、追肥をする(越冬中は必要ない)。追肥は「用土の準備」と同じもの、量でかまわない。 (4) 冷蔵処理：促成、半促成栽培においては冷蔵処理が必要となる。この場合出荷予定の2～3か月前に7℃程度で1か月間処理をする。普通栽培や、半促成栽培で早生種を用いた場合、特に必要はない。 (5) わい化処理：出荷時の草姿を整えるのと、着らい数の確保のために6～7月の1か月おきに2回わい化剤で処理する。																																																																		
	中																																																																							
9	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)	6. 出荷 市場にもよるが、全花らいの2～3割開花したときが出荷適期となる。枯れ葉や傷んだ花等を取り除き、鉢の汚れを落として出荷する。																																																																		
	中																																																																							
10	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)																																																																			
	中																																																																							
11	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)																																																																			
	中																																																																							
12	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)																																																																			
	中																																																																							
1	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)																																																																			
	中																																																																							
2	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)																																																																			
	中																																																																							
3	上	越冬期間	冷蔵処理 (促成)	冷蔵処理 (半促成)	冷蔵処理 (促成)																																																																			
	中																																																																							